

シニアのフィーチャーフォン利用者でもスマホに強い関心を示す層が存在

～スマホへのイメージを調査することで見てきたシニアとスマホの距離感～

株式会社NTTドコモ モバイル社会研究所

目次

調査結果1 : スマホへのイメージ単集計結果

調査結果2・3 : スマホ所有・未保有者の特性に基づくグループ分け

■ 調査結果

1 ———

未保有者でも5割強が「便利」

シニアの約3割がスマホを所有している状況の中で、スマホに対して一体どのようなイメージを持っているのか。今回、モバイル社会研究所では、シニアに対しスマホを持っている・持っていない両方の人に、ほぼ同じ質問でスマホに対するイメージ調査をおこなった。

	保有	未保有
見栄え	16.6%	11.3%
便利	88.2%	54.3%
優越感/引け目	9.9%	1.7%
話題	9.2%	7.1%
困る	64.5%	3.4%
新商品気になる	22.4%	4.5%
操作が難しい	63.8%	64.5%
料金が高い	74.3%	71.1%

図1 シニアのスマホへのイメージ

出展) モバイル社会研究所調べ

その結果、興味深い状況が浮き彫りとなった。まず、スマホを持っていない人でも、半数以上がスマホに対し「便利」と思っている。今後、スマホの普及が進むと予想される中で、期待できる結果でないだろうか。その一方課題も見えてきた。「操作が難しい」「料金が高い」と答えた割合は、スマホ保有・未保有ともあまり変わらない状況であった。

2 ———

スマホ所有者のイメージ、積極派から消極派まで存在

スマホへのイメージの回答の特徴を元に、スマホ保有者をグループ分けした結果が図2の通りである。ネガティブなイメージが少なく、活用して

	設問の回答			グループ名	構成比
	外見 【見栄・新商品】	活用性 【便利・困る】	料金・操作 【高くない・難しくない】		
1	○	○	—	積極派	17%
2	×	○	○	実用派	34%
3	×	○	×	不満派	39%
4	×	×	×	消極派	10%

図2 【スマホ所有者】スマホへのイメージ結果に基づくグループ分け

いる「積極派」や「実用派」から、ネガティブなイメージを持って活用している「不満派」、あまり活用していない「消極派」まで存在する結果となった。

3—— スマホ未保有の中にもスマホへ高い関心を示す層が存在

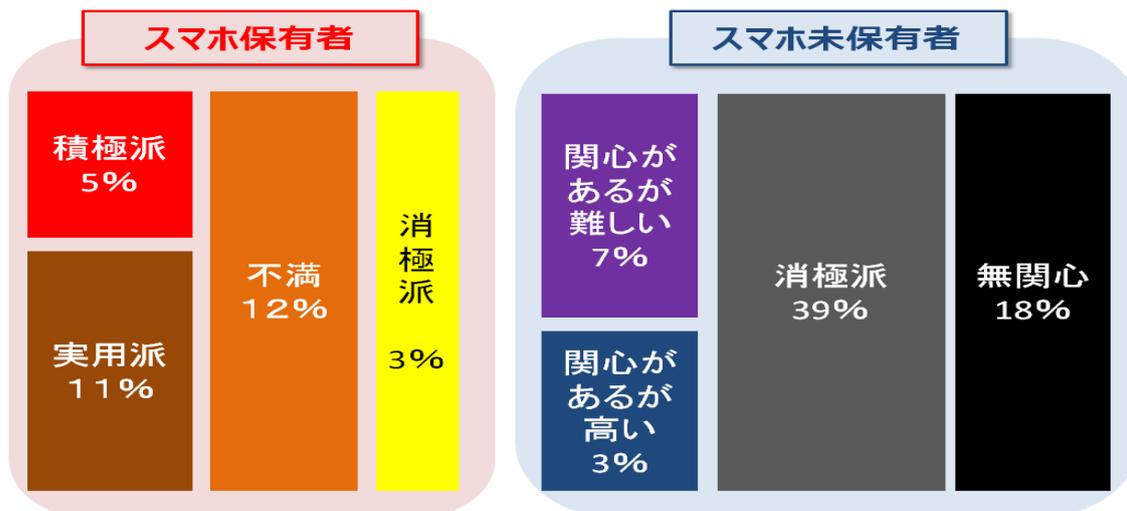
同じ手法を用いて、スマホ未保有者（主にフィーチャーフォン利用者）のグループ分けもおこなった。その結果が図3である。スマホに対して、難しい或いは高いと感じながらも非常に高い関心を示

図3 【スマホ未所有者】 スマホへのイメージ結果に基づくグループ分け

	設問の回答			グループ名	構成比
	関心がある【便利・見栄え・話題】	難しい	料金が低い		
1	○	×	○	難しいが関心がある	11%
2	○	○	×	高いが関心がある	5%
3	—	×	×	消極派	58%
4	×	—	—	無関心	26%

したグループが存在する一方、多少の関心は示しつつネガティブなイメージが先行する「消極派」、スマホに対し関心がほぼない「無関心」グループまで存在する結果となった。

参考 —— 【シニア全体】 シニアのスマホへのイメージ結果に基づくグループ分け



■今後の掲載予定

調査結果については、「データで読み解くスマホ・ケータイ利用トレンド 2016-2017 ケータイ社会白書」（2016年10月発刊）の中でも記載している。

■調査概要（シニアの生活実態調査：訪問留置調査）

調査時期：2015年10～11月 調査対象：関東（1都6県）在住、60～79歳男女
 標本抽出法：QUOTA SAMPLING 性別・年齢・居住地（都市規模）で割付530サンプル回収

■問い合わせ先

グループの分け方、詳細な特性など、ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

株式会社NTT ドコモ モバイル社会研究所 msri-inq-ml@nttdocomo.com